

# 令和4年度 福島県立聴覚支援学校会津校 学校評価 アンケートまとめ

【評価者 保護者7名、教員6名】【評価基準 A:良い、B:やや良い、C:やや不十分、D:不十分】【意見・要望等 ○:おおむね達成できた、△:さらに取り組むべきこと、●:課題(改善が必要)】

	今年度の取組		評 価				改善を要する事項・意見・要望等
			A	B	C	D	
I-1 自立と社会参加に向けた指導の充実	1 一人一人の自立と社会参加に向けて教育的ニーズや合理的配慮について、本人及び保護者との合意形成を図り、「個別の指導計画」を活用し、学習指導の充実を図り進路実現に努めます。	保護者	5	1			○本人が理解しやすいよう工夫した授業になっていると思います。 ※未記入1
		教員	6				
	2 交流及び共同学習を充実させ、集団での学びの経験を通して、社会性を伸ばし、自ら考え判断して行動できる力を育てます。	保護者	2	2	3		△居住地域学校との交流をもう少し多くして、多人数での集団行動を通して学ぶことが、本人の理解につながり、また刺激となり伸びてくる部分が多くなると思います。 △交流の回数が増えたらと思う。座学でも良いと思う。 △もっと交流活動を増やしてほしい。
		教員	5	1			
	3 関係機関及び本校と連携し、「個別の教育支援計画」を活用し、切れ目のない支援体制の構築に努めるとともに、発達の段階に応じた生活習慣と社会性の育成を図ります。	保護者	6	1			
		教員	6				
I-2 主体的に思考する力と豊かな心の育成	1 一人一人の言語力を高め主体的に思考し、自ら考えて学ぶ力を育む授業の充実及び質の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを大切にしながら学力の向上に努めます。	保護者	7				
		教員	6				
	2 地域との密接な連携を大切に、ボランティア等を積極的に活用し、様々な人との触れ合いや体験を通して幼児児童の豊かな心を育てます。	保護者	3	3	1		△コロナ感染対策もあり、ボランティア受け入れが難しいとは思いますが、今後ともできる範囲内で、様々な人とのふれあいの場をお願いいたします。
		教員	6				
	3 ICT機器を積極的に活用し、一人一人の学びの実態に応じた授業を行い、教育の質の向上を図ります。	保護者	6	1			○学習の場で、児童自らタブレットを用いて分からない言葉の画像を検索したり、映像を見たりと、言葉とイメージをリンクさせるためのツールとして活用するようになった。
		教員	6				
I-3 一人一人の実態を踏まえた言語力の育成	1 幼児児童が、多様なコミュニケーション手段を活用し、学力と言語力を高められるよう研修の充実を図り実践力を高めます。	保護者	6	1			○相手に応じて、手話や口話、指文字を使い分けて、適切に活用する姿が見られた。
		教員	4	2			
	2 音声、文字、手話、指文字等のコミュニケーション手段を適切に活用して、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるコミュニケーション能力と伝えようとする意識を高める指導を行います。	保護者	7				○毎日のクイズは、本人も楽しみにしているようです。
		教員	6				

	3	考えを深め、広がる授業づくりと一人一人の言語活動の充実を図るため、外部講師の活用や研究授業を積極的に行い、授業改善に努めます。	保護者	4	3				
			教員	6					
II 安全で安心な学校づくり	1	体力づくりと食育について、家庭と連携しながら進め、体力の向上や健やかな心身の発育を促進するとともに、新型コロナウイルス感染症などの感染症予防に努めます。	保護者	7					
			教員	5	1				
	2	校舎内外の安全点検を行い、安心安全な学校生活を確保するとともに、個人情報及び情報セキュリティの管理を徹底します。	保護者	5	2				
			教員	6					
	3	運営計画に基づき、全職員の共通理解を深め、安心安全な医療的ケアを実施します。	保護者	5	2				
			教員	6					
	4	災害や犯罪の危険を予測し、防災・防犯教育や放射線教育、がん教育等を充実します。	保護者	5	2				
			教員	5	1				○ガン教育⇒食生活や運動(ストレスの発散させる)健康的な生活を送るための指導は行うことができた。
III センター的機能の充実	1	医療や福祉等の関係機関と地域支援センターが連携し、乳幼児早期教育相談の充実を図ります。	保護者	4	3				
			教員	6					○相談の件数も増えていることから、教育相談の充実が図れていることが分かる。
	2	地域の学校等に在籍する聴覚障がいのある子どもについて、一人一人の教育的ニーズに応じた切れ目のない支援を行います。	保護者	3	4				
			教員	6					○卒業後も困り感の実態調査や学校間での情報共有を行い、切れ目のない支援を行えることができた。
	3	地域の関係機関と連携し、校内の幼児児童や保護者への支援を行います。	保護者	3	2	2			△もう少し情報の公開をするとともに、保護者の目に入りやすいようにすることが重要だと思います。遠方から通う者にとって負担が大きすぎるところがあると思います。 △「地域の関係機関」とはどこの事か。「支援」とは、どのような支援があるのか、教えていただきたい。
			教員	6					
	4	地域の教育関係者や保健師等との連携により聴覚障がいのある子どもの支援に関する情報を受信、発信するとともに地域のニーズに応じた研修会や学習会を開催します。	保護者	4	3				
			教員	6					